

伸ばす育てる

力を引き出す ふくしまの指導者

4

ピッチから少し離れた場所で見守り、必要以上の指示は出さない。「ヒントは与えても、答えは言わない」。自分で改善点を見つけることが上達への近



「考えるサッカー」をモットーに掲げ、尚志高を強豪に育てた仲村さん

ヒントは与えても、答えは言わない

道と考えている。

平成二十四年、全国高校サッカー選手権大会で県勢初の三位になった尚志高サッカー部。平成九年から顧問を務め、全国的に知られる強豪に育てた仲村浩二さん

平成二十四年、全国高校サッカー選手権大会で県勢初の三位になった尚志高サッカー部。平成九年から顧問を務め、全国的に知られる強豪に育てた仲村浩二さん

なから、こうし、千葉市出身。習志野高、順天堂大体育学部卒。高校時代は日本高校選抜、大学時代はバルセロナ五輪予選代表メンバーとして活躍した。五輪予選での日本人最年少ゴール記録保持者。福島FCの選手を経て、平成9年から尚志高サッカー部顧問を務める。郡山市在住。

だりした際に役立つのが、交換日記形式の「サッカー

いる。

「サッカーはこれやっておけばよいという答えがなく、常に進化しなければならぬ」との信念がある。生徒は夢を抱き、指導者はその夢を応援する姿勢で指導する必要があると考えて

週に一日は完全オフの日を設けている。体を休ませるだけでなく、サッカーから離れることで「サッカーがしたい」と意欲を高める狙いがある。練習予定表を早めに配布するのもポイント。大会に合わせてコンディションを調整するなど、照準から逆算して行動する力が身に付くという。

「ノート」だ。自由に書いてもらい、助言して返す。直接話しにくいことも文章では表現しやすいのか、悩みや体調などを細かく書き込んでくるという。試合後には、記憶に残ったプレーや改善点を記させる。大会前にノートを見返すことで、自身の成長の軌跡を振り返ることができる。

尚志高サッカー部顧問 仲村 浩二さん

生活面も気配り

主サッカー部 山城 廉君(3年)



先生は温厚で、サッカーの場面で叱咤激励の言葉をかける。先生は細やかな生活面での気配り。細かい生活面での気配り。先生は細やかな生活面での気配り。